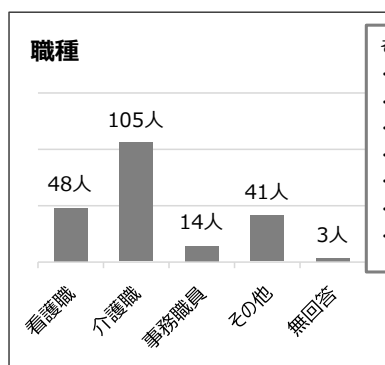


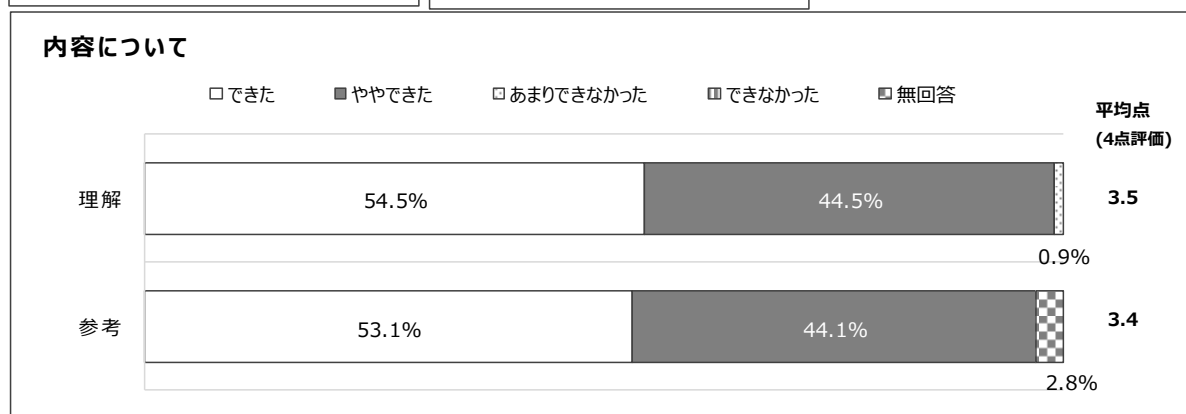
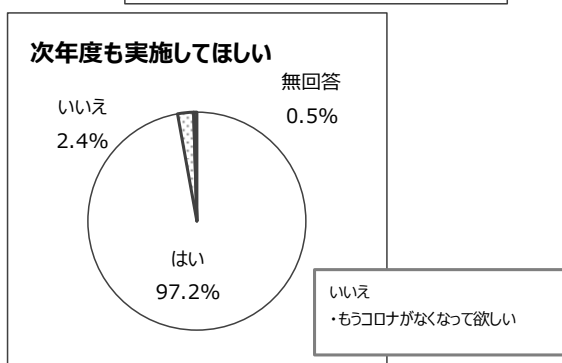
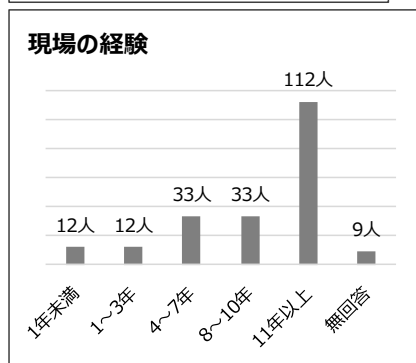
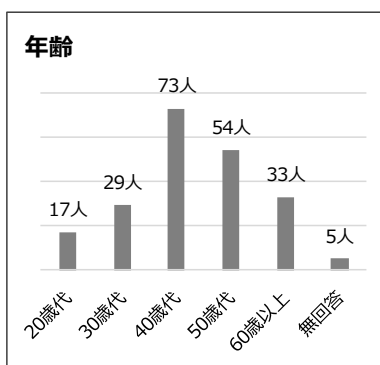
福祉施設への出張研修

目的：施設で研修会を開催することで他職種間の情報共有ができ、統一した看護・介護ケアを提供できる。また同じ研修を共有すれば指導する看護職の負担軽減ができる。業務改善が図られることで離職防止、定着促進につなげる。

開催日	研修内容	受講者数	会場
7/11 (火)	褥瘡対策	73名	諫早療育センター
7/26 (水)	標準予防策	17名	南長崎クリニック
7/20 (木)	感染対策	49名	はなの杜
11/6 (月)	メンタルヘルスケア	22名	介護老人保健施設 長寿苑
12/7 (木)	排泄ケア	13名	南高愛隣会
1/19 (金)	オムツの上手な当て方	20名	特別養護老人ホーム 湯楽苑
1/25 (木)	急変・緊急時の対応	7名	特別養護老人ホーム ききつ
2/27 (火)	感染対策	27名	特別養護老人ホーム 海風荘

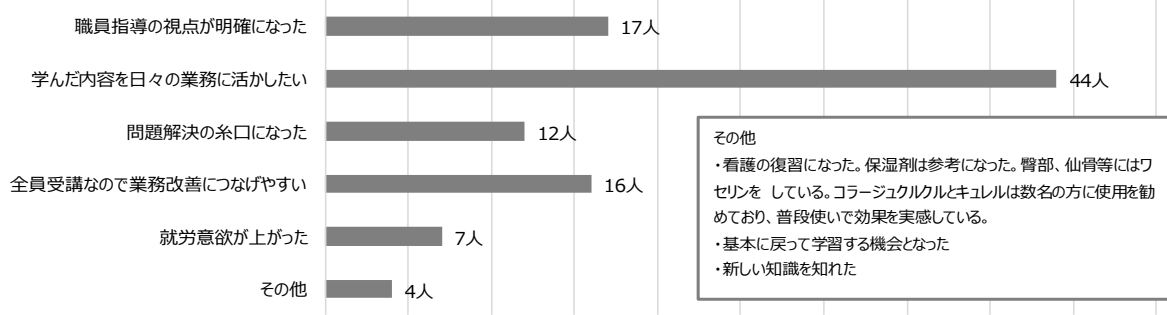


その他
 ・管理栄養士
 ・栄養士
 ・生活支援員
 ・ソーシャルワーカー
 ・相談員
 ・作業療法士
 ・管理者



「看護職の方対象」

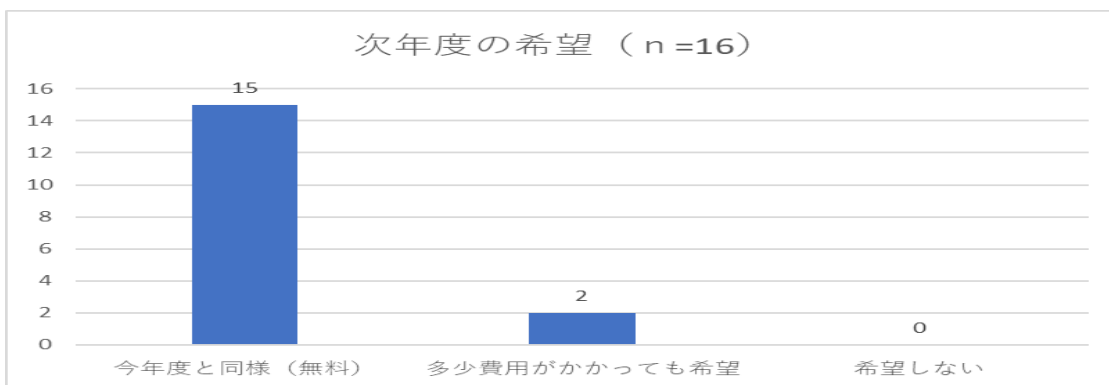
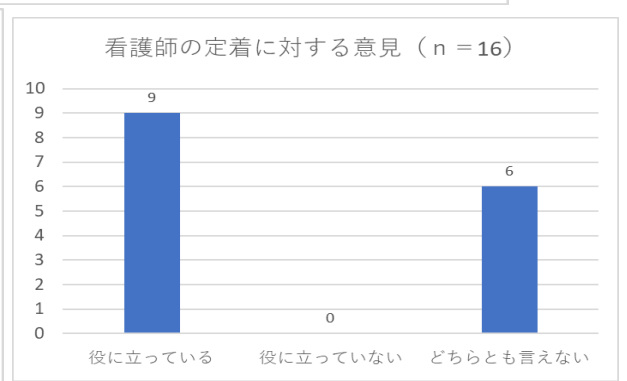
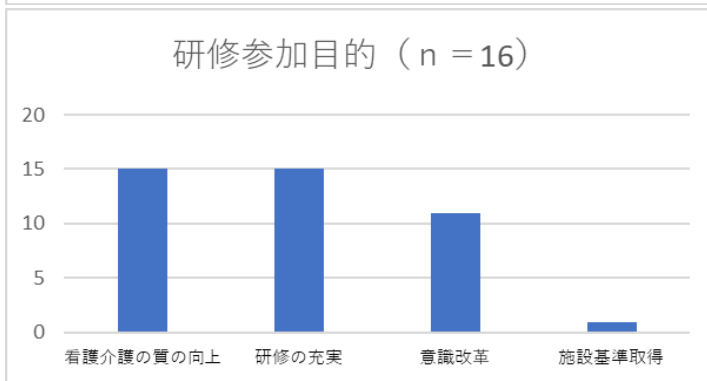
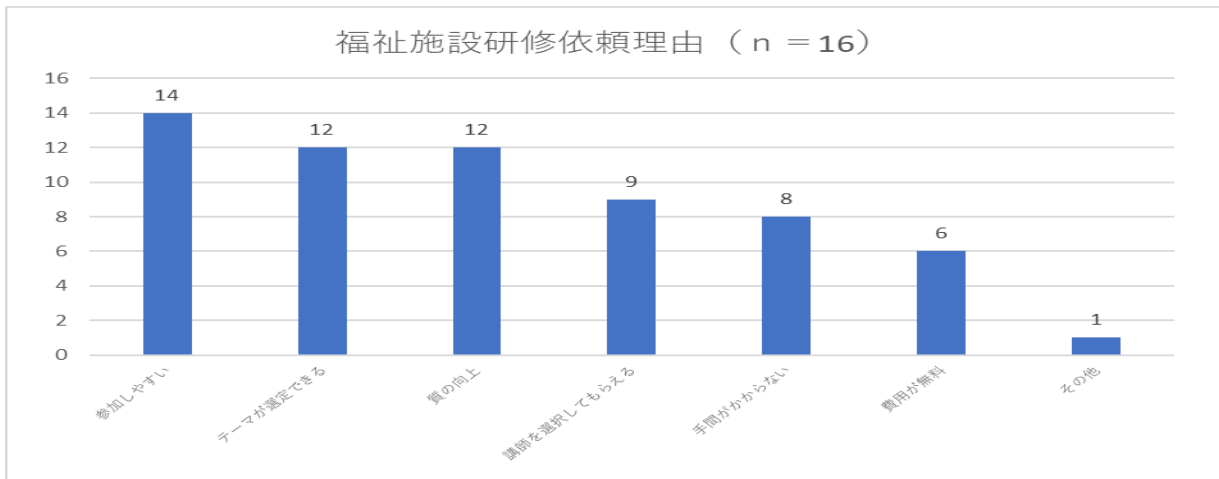
受講後、効果があった点（複数回答可）



受講者数	228人
回答者数	211人
回答率	92.5%

※割合の合計は四捨五入の関係で100%とならない場合があります。

福祉施設研修実施管理者アンケート調査結果（回答 16 名）



まとめ

<評価>

「他職種間の情報共有」の目的では、参加職種はアンケート調査対象 211 名中介護職が 105 名（50%）で最も多く、続いて看護職 48 人（23%）だった。基本的な内容の講義を希望する施設が多かった。実践的な内容だったので、看護職員へ研修の効果についてのアンケート調査でも「学んだ内容を日々の業務に活かしたい」と回答する人が 44 名（92%）で、「他職種間の情報共有ができ統一した看護・介護ケアを提供できる」という目標については達成できたと考える。

「同じ研修を共有すれば指導する看護職の負担軽減ができる」の目的では、看護職に受講後、効果があった点についての質問については、「職員指導の視点が明確になった」17 名（35%）、全員受講なので業務改善につながりやすかった 16 名（33%）だった。それよりも「学んだ内容を日々の業務に生かしたい」と回答する人が 44 名（92%）で多く、研修内容を指導に生かすよりも各自の実践に役立つためと思っている人が多い。学んだことを看護職員・介護職員それぞれが実践できれば、指導する機会も減り看護職の負担軽減と判断するが、テーマが基本的な内容が多く、どこまで看護職の負担軽減になっているかは不明である。

「業務改善が図られることで離職防止・定着促進につなげる」の目的は、今年度は施設管理者へのアンケート調査 16 名に実施し、申し込み理由は①質を向上したい 14 名（88%）自施設で実施するので参加しやすい、施設に現状に応じたテーマ、内容が選択できる 12 名（75%）が上位を占めた。次年度の研修希望も「希望する」が 15 名（94%）だったが、「多少費用がかかっても希望したい」は 2 名（13%）だった。看護師の離職防止や定着促進に研修が役に立っているかは「役に立っている」9 名（56%）「役に立っていない」0 名だったが、「どちらとも言えない」との回答が 6 名（38%）であった。内容も基礎的内容が多く、この研修を実施することが、「離職防止・定着促進につなげる」ことができたかは不明である。しかし、「学んだ内容を日々の業務に生かしたい」と回答する人が 44 名（92%）と看護職員はほとんど業務への活用に対して意欲を持っているので、それを「離職防止・定着促進につなげる」と評価するかは難しいと考える。

<課題と今後の取り組み>

研修目的の「業務改善が図られることで離職防止・定着促進につなげる」については、業務改善のきっかけになりうるが、離職防止・定着促進については明確な回答は出ていない。

令和 6 年度も同様に実施する。